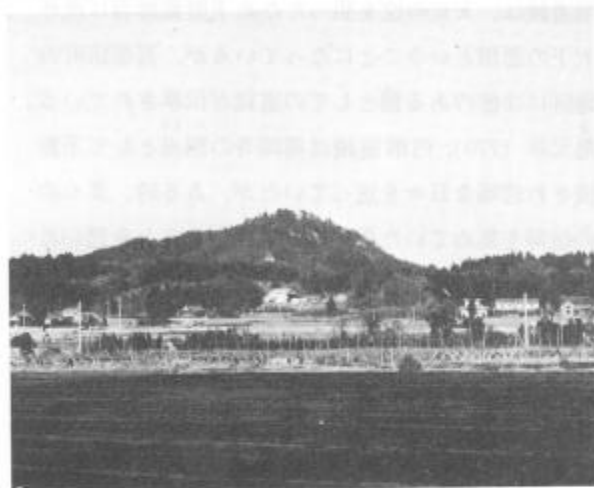


51 と しろ さん の ひく あな 戸室山の百穴

伝承地：大谷町

参考書籍：17



(戸室山)

石の里大谷の南方にそびえている美しい山がある。この山は戸室山といって古代の人々が信仰の対象とし、また付近は古代の遺跡地となっている。この戸室山に弘法大師が全国巡錫のおりに訪れ、一晩に百穴を掘ったという話が伝わっている。しかし、戸室山周辺は、石材の産地であったため大師の掘った穴は、ほとんど跡かたもなくなってしまったという。

夕やみせまる大谷路を錫杖片手に足ばやに急ぐ一行がありました。弘法大師と

その弟子の2人です。大師がふとみあげると、真っ赤な夕日の中に戸室山がくっきり浮かび、とてもこうごうしく感じられました。そのために大師は、この山すそに一晩のうちに百穴を掘り村人の幸福を願うという大変困難なことを思いつきました。

夕暮れの大谷寺から響く鐘の音を合図に掘り出しました。おともの弟子は大師がのみをふるっている間は一心にお経をあげていました。静かな山里に、のみの音とお経が響きわたっていましたが、だれ一人として気付く人がいません。大晦日の夜はとっふりと暮れて、50穴を掘るころは戸室山は凍りつくような寒さの中にあり、空には満天の星が輝いていました。90穴を掘るころは、さすがの大師の身体も疲労のためにのみの動きが鈍くなってきました。しかも、96穴を掘るころは、東の空が、白み出しました。97、98、99穴いよいよ最後の百穴を掘ろうとしたとき、正月元旦の夜明けのため、村一番の早起きの若者が、普段よりも早く起きて、お正月の餅をつきはじめたのです。この音が一心にのみを打つ大師の耳に達したとき、大師は村人が起きるまでの間に百穴を掘るという願いが、成就しなかったということが残念に思われましたが、弟子と2人で99の穴に魂を入れるお経をあげたのち、山を出ました。

村を去ろうとした時、村境で村人に会ったので、一晩で百穴を掘ろうとしたが最後の1穴は餅つく音のために果たせなかったと伝えて立ち去りました。村人たちは、この僧は全国行脚の旅をしている弘法大師とその弟子であることがわかり、大師の願いを破ってしまったことに心を痛め、正月元旦の朝に餅をつくことをやめてしまいました。戸室山周辺の村人たちは、正月元旦の朝は餅をつくことをせず、赤飯を炊くようになり、餅は正月14日につくようになりました。しかし、現在では、このような習慣はなくなり、もとに戻りました。また、大師の掘った99穴もいつのまにか、消えてしまいました。

